

“トム・ソーヤになろう!”

アドベンチャー in 多摩川

一ワクワクするような呼びかけで、世田谷区の子
どもたちの夏の大会『アドベンチャー in 多摩川
いかだ下り大会』が今年も開催されます。第3京浜
道路が多摩川を渡る橋の下から約1kmを、小中学生
が3~5名のチームを組んで「手づくりいかだ」で下
り、タイムやアイデアを競うという、夏らしいダイナミ
ックな冒険事業です。地元のみならず各地で有名に
なりつつあるこの大会は、世田谷区青少年委員会の
主催で、教育委員会をはじめ多くの組織や団体の協
力のもとで開催され、今年で7回を数えます。

8月29日に予定されている今年の大会を目前に
控えた、世田谷区青少年委員会の事業部長・山城文
子(やましるふみこ)さんにお話をうかがいました。



手作りいかだにコスチューム。水しぶきをあげて多摩川に挑む!

きっかけは“活動見直し”+“多摩川”

「きっかけは青少年委員会の活動の見直しでした。区内
の64人の青少年委員がそれぞれの担当地域で地道に青
少年の健全育成に関わる中で、より主体的に積極的に活
動を展開しようと、自主事業実施の方針をたてたのが平成
9年でした。世田谷の恵まれた自然を活かした体験事業と
いうことで多摩川を使った手作りいかだ下りを考えつき、翌
平成10年、第1回の大会を実施しました。最初の年は応募
があるかどうかと心配していましたが、36艇が参加しました。
それから回を重ねるごとに出席数が増え続け、昨年は88艇
が参加、今年も抽選になりました。」

今の子どもたちのまわりには・・・

「子どもたちは水の中が大好きで、本当に楽しそうです。
川に入ることなど、子どもにとっては普段ありえないこと
ですが、いかだ下りを通して多摩川をより身近に感じるよう
です。いかだ下りが終わってから川遊びをしたり、川にいる生
物に興味を持ったり。ほんの数十年前、世田谷には畑が多く
て小川や用水路、ザリガニがいる池もありました。そういう時
代にはわざわざこんなイベントをする必要はなかったのです。
でも、いつの間にか自然が失われ子どもをとりまく環境は大
きく変わってしまいました。」

自然体験プラスアルファ・・・

「まず、いかだを作るために、クラスで、家族で、友人同士
で協力して一つのものを作り上げるという体験。それから、
いろいろな大人をお願いして手伝ってもらいますね。子ども
たちが地域の大人に感謝するということも大切です。さらに、
失敗しながらも自分たちで一つのものを作り上げる達成感。
これも大きな心の体験でしょう。モノが豊かな時代、子ども

に必要なものを大人が用意してしまう時代ですが、子ども
たちには多くのことを体験する場を意図的に作ってあげた方
がいいと思います。子どもはそこから、自分で何かを見つ
けて、それがやがて将来につながっていくのだと思います。」

事故と安全と自然体験

「自然の中での活動は命がけです。一つの事故が生命
に関わります。この事業でも、安全対策に一番気を使っ
ています。幸いこれまで大きな事故もなくやってこられました。
主催者の私たちも事前に十分に調査をします。当日の水上
安全には、地元の消防団や消防署、地元大学生のライフセ
ービングのボランティア、多摩川をめぐるさまざまな市民団体
などの多くの協力団体の方々に関わってください。川に
は危険もあり、子どもにとっては怖いところですが、川でな
くてはできない体験がたくさんあります。“危険だから立ち入
ってはいいけない!”と禁止するばかりでなく、危険をきちんと
教えた上であえて体験させる必要もあるのではないのでしょうか。」

子どもたちの笑顔が一番!

「イベントのプロではない私たち(青少年委員)が準備か
ら当日まで運営することはたいへんなことです。大会前日は、
委員・職員の一部は区内の青年の家に泊まって準備をし
ます。水の事故も多いですし、とにかく念入りの調査や準
備が必要です。それでも当日、ゴールにたどりついた子ども
たちの誇らしげな顔や、日焼けした子どもたちの真っ白な歯
を見ると、“やってよかった!また頑張ろう!”と思うんですね。」

さあ、今年も“多摩川の夏”がやってきます!たくさんの体
験と思い出を作って、一まわり大きくたくましく成長した子
どもたちがきっとそこにいるのですね。がんばれ、東京のトム・
ソーヤ!

★この事業についてのお問い合わせは「世田谷区教育委員会事務局 生涯学習・スポーツ課」まで。